

## 沖縄県・下地島空港において旅客ターミナル施設整備を開始

～下地島空港国際線等旅客施設整備・運営及びプライベート機受入事業～

三菱地所株式会社は、沖縄県宮古島市伊良部地区において計画を進めてまいりました下地島空港における国際線等旅客施設整備・運営及びプライベート機受入事業について、本日2017年10月11日に「下地島空港旅客ターミナル施設」新築工事に着工、地鎮祭を開催しましたのでお知らせいたします。本施設は2019年3月に開業予定です。

本事業は、沖縄県・下地島空港において旅客ターミナル施設を整備し、国際線・国内線旅客の取扱い、並びにプライベート機等の受け入れを行うものです。2015年12月、沖縄県へ事業実施についての提案を行い、2017年3月に沖縄県と基本協定を締結、今般着工する運びとなりました。



### 【本事業の特長】

#### ① 沖縄県・宮古諸島を国際的なリゾートへ

国内屈指のリゾート地として人気の高い宮古諸島に、国際線機能を整備し国際的なリゾート地への更なる成長に貢献。下地島空港を、パイロット訓練飛行場としての機能のみならず、一般旅客が利用できる空港として再出発を図る。

#### ② 「空港から、リゾート、はじまる。」をコンセプトとした空間づくり

空港に到着した瞬間にリゾート体験のはじまりを感じてもらえるよう、「空港から、リゾート、はじまる。」をキーコンセプトに掲げ、豊かな緑や自然の光、自然の風を取り込む等リゾート感を演出。また、ターミナル敷地内にレンタカーの乗り出し・返却エリアを整備する等旅行者の動線を意識した設計。

#### ③ 「CLT<sup>※1</sup>の活用」・「ネット・ゼロ・エネルギービル<sup>※2</sup>」、2つのエコへの取り組み

本施設では、空港ターミナルとして全国で初めて、CLT（直交集成板）を屋根の構造材に採用。また、同様に空港ターミナルとして全国初となる「ネット・ゼロ・エネルギービル」の取り組みを実施。2つのエコへの取り組みで「エコアイランド宮古島」に相応しい施設を目指す。

今後、下地島空港の持つ宮古圏域の玄関口としての高いポテンシャルや、リゾート感あふれる立地を活かしつつ、当社が持つノウハウや知見を用いて、下地島空港及び空港周辺地域の活性化を推進し、内外交流人口拡大によって地域活性化に貢献して参ります。

また、本事業のみにとどまることなく、沖縄県での事業拡大を目指します。

<sup>※1</sup> CLT…Cross Laminated Timber の略。1995年頃からオーストリアを中心として発展してきた新しい構造材で、板の層を各層で互いに直交するように積層接着した大判パネルのこと。

<sup>※2</sup> ネット・ゼロ・エネルギービル（ZEB）…先進的な建築設計によるエネルギー負荷の抑制やパッシブ技術の採用による自然エネルギーの積極的な活用、高効率な設備システムの導入等により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、エネルギー自立度を極力高め、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築物

## ■ 「下地島空港旅客ターミナル施設」について

### ① エアライン誘致について

沖縄県は、2021年度までに沖縄県への入域観光客数 1,200 万人（うち外国人観光客数 400 万人）達成という目標を掲げています。この目標に向かって、下地島空港において、国際線、国内線 LCC およびプライベート機等、新たな航空需要の受入を行うべく、沖縄県等とともに航空路線の誘致活動を進めております。国際線では、近年沖縄への観光客が多い台湾や香港、すでに宮古島にチャーター便が就航している韓国など、アジア地域をメインターゲットと定め、路線開拓を行います。国内線では、LCC を中心に主要都市からの就航を目指し、誘致活動を行います。路線開拓については、沖縄県や沖縄観光コンベンションビューロー、宮古島市や宮古島観光協会等と連携して進めてまいります。

### ② 「空港から、リゾート、はじまる。」をコンセプトとした空間づくり

本事業のキーコンセプトを「空港から、リゾート、はじまる。」と定め、空港利用者や航空会社の視点に立った施設づくりに取り組みます。空港に到着した瞬間にリゾート体験のはじまりを感じてもらえるよう、豊かな緑や自然の光を取り込み、航空機への搭乗直前まで利用者がくつろげる空間を演出します。本計画は、ターミナル正面にレンタカーの乗り出し・返却エリアを整備する等旅行者の動線を意識した設計となっており、観光客にとっての使い勝手の良さを追求しています。

<イメージパース>



### ③ 2つのエコへの取り組み

<CLT（直交集成板）の活用>

本施設では、板の方向が層ごとに直交するように重ねて接着した大判のパネル「CLT」を、空港ターミナルとして全国で初めて、屋根の構造材に採用します。本施設は、1棟あたりのCLT使用量で日本一の施設となる予定です（2017年10月11日現在、日本CLT協会調べ）。CLTは1995年頃からオーストリアを中心として発展してきた新しい構造材で、今後日本での普及が見込まれます。CLTの利用に対しては、林野庁の平成28年度CLTを活用した建築物等実証事業及び森林・林業再生基盤交付金制度を活用。沖縄県が定める地域材（沖縄県内で流通する県産又は九州産材等）を使用して、地域の森林・林業再生へ貢献します。

<「ネット・ゼロ・エネルギービル（ZEB）」の取り組み>

本施設では、国が基準とするビルと比較して、68%一次エネルギー消費を減らす計画であり、経済産業省 資源エネルギー庁の「ZEB ロードマップ」においては ZEB Ready ランクに該当、BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）では最高ランクの認定を受けています。なお、これは空港ターミナルとして全国初の取り組みです。ZEBの実現に対しては、経済産業省の ZEB 実証事業制度を活用しています。

<BELS 評価マーク>



この建物のエネルギー消費量 68%削減  
2017年9月29日交付 国土交通省告示に基づく第三者認証

## ■計画概要

所在地	沖縄県宮古島市伊良部字佐和田 1727 番地
構造	RC 造+CLT 造、地上 1 階建
敷地面積	31,580 m <sup>2</sup>
施設面積	13,840 m <sup>2</sup>
開業予定	2019 年 3 月
施工者	株式会社國場組・株式会社大米建設 特定建設工事共同企業体 (CLT 工事：山佐木材株式会社)
設計者	株式会社日建設計
インテリアデザイン	株式会社乃村工藝社 A.N.D.

### <地図>

